

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成20年7月31日(2008.7.31)

【公表番号】特表2008-508025(P2008-508025A)  
 【公表日】平成20年3月21日(2008.3.21)  
 【年通号数】公開・登録公報2008-011  
 【出願番号】特願2007-523565(P2007-523565)  
 【国際特許分類】

A 6 1 C 7/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 C 7/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成20年6月12日(2008.6.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

3次元仮想環境内で歯の少なくとも一部のデジタル表現を表示するステップと、  
 前記歯に関連付けられる歯列矯正器具の所望の咬合高さを受け取るステップと、  
 前記3次元仮想環境内において、前記歯列矯正器具を前記歯の上で、該歯列矯正器具について規定された並進軸に沿って現咬合高さから所望の咬合高さに自動的に調整するステップと、

前記所望の咬合高さにおける前記歯列矯正器具のデジタル表現を表示するステップと、  
 を含む方法。

【請求項 2】

3次元環境内で歯の少なくとも一部のデジタル表現を表示するステップと、  
 該歯に関連付けられる歯列矯正器具の所望の咬合高さを受け取るステップと、  
 該歯を少なくとも2つの部分に区分するステップと、  
 該3次元環境内で該歯列矯正器具を、該歯の該部分のうちの選択された1つの上で該所望の咬合高さに自動的に調整するステップと、  
 を含む方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

再び図11Aを参照すると、歯を区分するために、モデリングソフトウェア20は、歯250の最舌側点 $p_{Li}$ を確定する(210)。この最舌側点 $p_{Li}$ は、ブラケットベース原点に向かって並進したブラケットスロット座標系( $x_{s,i}$ 、 $y_{s,i}$ 、 $z_{s,i}$ )に対して確定される。ブラケットベース原点は、ブラケットベースの中心にある点として定義される。並進したブラケットスロット座標系は、軸 $x_{s',i}$ 、 $y_{s',i}$ および $z_{s',i}$ によって表される(図14A参照)。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 1 0 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 0 2 】

次に、ブラケット 1 0 2 4 を、唇側に配置される場合は好ましくは歯の唇側に、または舌側に配置される場合は好ましくは歯の舌側に、視線に沿った点に配置する。たとえば、ボックス 1 0 5 0 に示すように、ブラケット 1 0 2 4 を、仮想的に、ブラケットベース 1 0 2 6 が犬歯 1 0 4 5 の唇側面に面するように視錐台 1 0 3 6 の頂点に配置してもよい。ブラケット 1 0 2 4 はまた、頬唇側・舌側基準軸 1 0 5 6 の舌側ベクトルが視線と同一線上にあるようにも向けられる。さらに、ブラケット 1 0 2 4 は、咬合側・歯肉側基準軸 1 0 5 2 の歯肉側ベクトルが、歯列弓が上顎弓である場合、ビュー平面 1 0 3 4 上に投影されとビュー平面 1 0 3 4 のアップベクトル 1 0 4 1 b に対して平行であるように向けられる。歯列弓が下顎弓である場合は、咬合側・歯肉側基準軸 1 0 5 2 の咬合側ベクトルがビュー平面 1 0 3 4 のアップベクトル 1 0 4 1 b に対して平行である。

【手続補正 4】

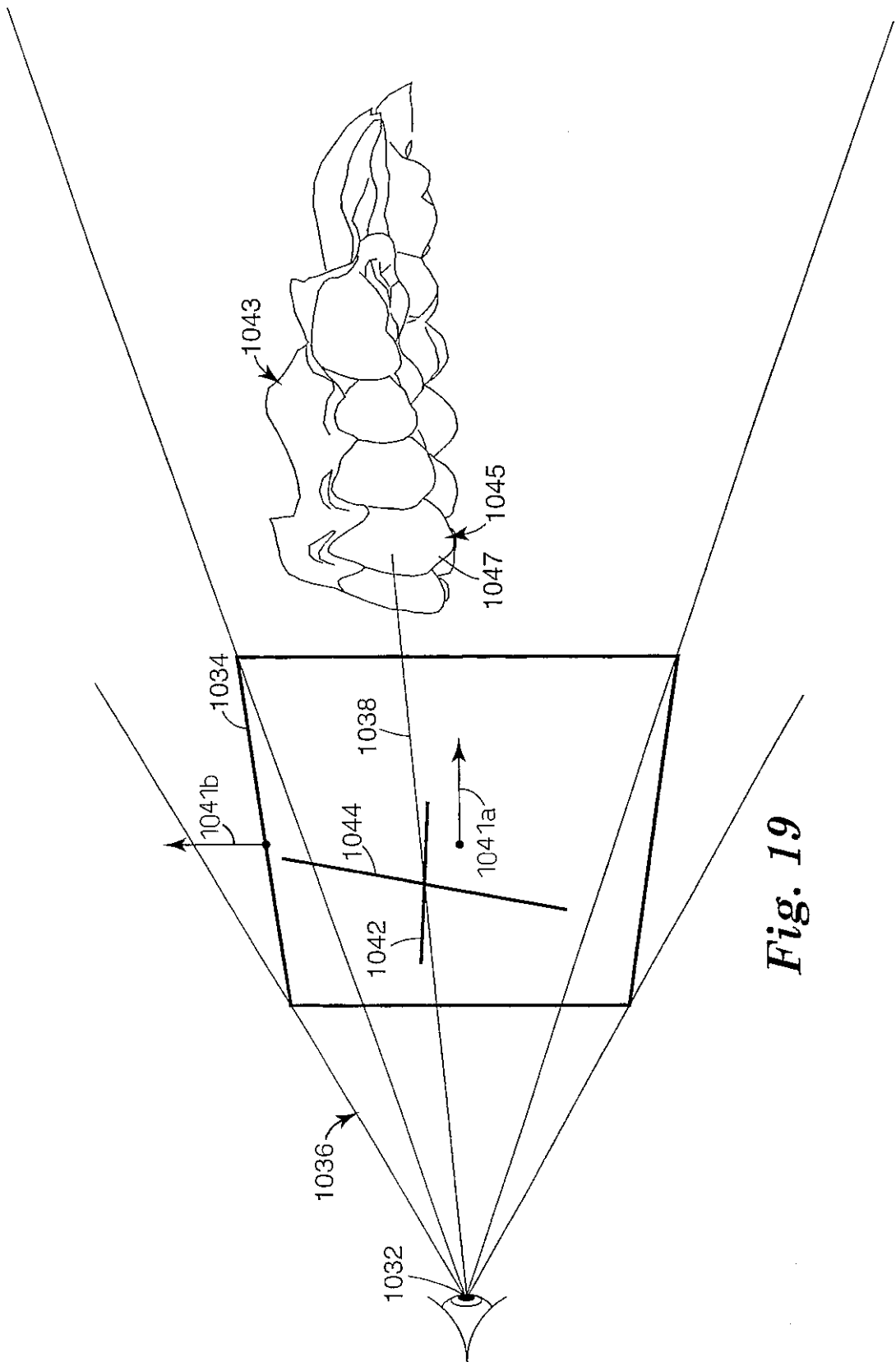
【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 図 1 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【図 19】

*Fig. 19*